

Q
44
vol. SPRING 2014

人まち結ぶ、
北九州芸術劇場の
情報誌「Q」

◎発行：(公財)北九州市芸術文化振興財団
◎北九州芸術劇場
北九州市小倉北区室町1-1-1リバーウォーク北九州内
TEL.093-562-2655 FAX.093-562-2588
<http://www.kitakyushu-performingartscenter.or.jp>

愛の讃歌

エディット・ピアフ物語

美輪明宏版

美輪明宏インタビュー

AKIHIRO MIWA Interview

その才と魅力が凝縮した名作を携えて、ついに美輪明宏が初登場。

多岐にわたるその圧倒的な知識と比類なき存在感で、多くの人を魅了する美輪明宏。日本におけるシンガー・ソング・ライターの元祖であり、俳優としてのみならず、演出や美術、衣裳や照明などでも才を發揮している稀有な人が、北九州芸術劇場に初お目見えする。

そこからピアフが迎った壮絶な人生を知るようになり、その生き様や人となりを理解するうちに湧いてきた、美輪曰く『憤り』の気持ちから生まれたのが、1979年に初演された本作品だ。並外れた歌の才能と無垢な魂を持つエディット・ピアフの魅力が、同じ音楽家である美輪の愛とリスペクトによって深く細やかに表現された本作品は、観る者的心に豊かな潤いをもたらしてくれるだろう。

そんな美輪の主演で今回上演されるのは、運命に翻弄され続けたエディット・ピアフの人生を描いた美輪明宏版『愛の讃歌～エディット・ピアフ物語～』。美輪が自ら脚本を書き、演出・美術・衣裳も手掛けており、愛と歌に生きたエディット・ピアフの魅力とともに、圧倒的に素晴らしい歌と、美輪の舞台人としての手腕も堪能できる感動大作だ。

小学生の頃から声樂を習い、故郷・長崎から上京して国立音楽大学付属高校に入学。同校を中退して16歳でプロの歌手として活動を始め、シャンソン喫茶・銀田里などで歌っていた美輪にとって、おそらくフランスが生んだシャンソンの女王エディット・ピアフは、もともと身近な存在だったに違いない。

そこからピアフが迎った壮絶な人生を知るようになり、その生き様や人となりを理解するうちに湧いてきた、美輪曰く『憤り』の気持ちから生まれたのが、1979年に初演された本作品だ。並外れた歌の才能と無垢な魂を持つエディット・ピアフの魅力が、同じ音楽家である美輪の愛とリスペクトによって深く細やかに表現さ

「コンサートや講演会では訪れたことがありますけれども、北九州市に芝居を持つ行くこと自体、今回が初めてです」と語る美輪。奇しくも同劇場では昨年、野田秀樹が美輪の人生を題材に書き下ろしたNODA・MAP『MIWA』が上演されている。そう告げると、「評判がよかつたので安堵しているんです（笑）。私も東京で観ましたけれども、よくできていましたよね。音の使い方もよかったですし、役者さんも皆よかったです」と嫣然と微笑んだ。

そんな美輪の主演で今回上演されるのは、運命に翻弄され続けたエディット・ピアフの人生を描いた美輪明宏版『愛の讃歌～エディット・ピアフ物語～』。美輪が自ら脚本を書き、演出・美術・衣裳も手掛けており、愛と歌に生きたエディット・ピアフの魅力とともに、圧倒的に素晴らしい歌と、美輪の舞台人としての手腕も堪能できる感動大作だ。

小学生の頃から声樂を習い、故郷・長崎から上京して国立音楽大学付属高校に入学。同校を中退して16歳でプロの歌手として活動を始め、シャンソン喫茶・銀田里などで歌っていた美輪にとって、おそらくフランスが生んだシャンソンの女王エディット・ピアフは、もともと身近な存在だったに違いない。

そこからピアフが迎った壮絶な人生を知るようになり、その生き様や人となりを理解するうちに湧いてきた、美輪曰く『憤り』の気持ちから生まれたのが、1979年に初演された本作品だ。並外れた歌の才能と無垢な魂を持つエディット・ピアフの魅力が、同じ音楽家である美輪の愛とリスペクトによって深く細やかに表現さ

中原 勝也

記憶を下敷きにオリジナルの“戯曲”を――演出家・内藤裕敬氏に聞く――

昨年度に引き続き2年目の本作品も、構成・演出を手掛けたのは南河内万歳、座長の内藤裕敬氏。2003年、北九州芸術劇場のこけら落とし作品「大砲の家の演出を手掛けるなど、北九州に縁の深い内藤氏ではあるが、この街の出身ではない彼の目に「Re:北九州の記憶」はどうのように映っているのだろうか。

最初にお話を伺った時、これは大切な事業だと思うと同時に、実践していくことはとても厳しいものだと感じました。実現の条件として「劇作家を志す有望な人材を募らなければいけない」とそれを演じて発表する人が地域に居なければいけないこと。そして、「戦争や自然災害、公害問題、経済的浮き沈みなど、絶えず折を経た波乱万丈の土地柄であること。さらには『それ Eine Reise durch die Stadt』と題して、この街で何十年と暮らしてきたので、開館後は劇場と地元劇団がさらに距離を縮めながら共同作業をする過程も見えてきたので、北九州ならこの事業も出来るのではないか」と、こう考えると、この地域でも出来る事業ではないのです。

僕は北九州芸術劇場の開館前から携わらせてもらいましたので、当時から地元劇団との付き合いもありました。開館後は劇場と地元劇団がともに、地域で活動している高齢者の方々です。お話をされていると、皆さん、自分がキラキラ輝いて本当に元気になつていいくんですよ。年を重ねていくと、徐々に委縮した交流に閉じこもつていかざるを得なくなります。普通は自叙伝を書く機会がないことが多いのですが、自分の歴史を振り返ったところ、自分が自分的存在が明らかになり、自分の中に沈殿していた過去みたいなものが、キラキラと水面に浮かび上がってくような時間にならうとする。だから、生きている彼らが居ることは、とても大きな喜びになる。それはそれで自分に気付いてくれるということ。

それが自分の存在が明らかになり、自分が街の人からお年寄りまで、お祭りみたいなかな場所で年々観に来てくださる方が若者男女どんどん増えていくと嬉しいですね。街のお祭りも見えていくと嬉しいです。でもそれは、若い人からお年寄りまで参加できるといいですね。もちろん課題もたくさんあります。取り組みは毎年進歩していくと思うから、それだけ難しさは増していくでしょう。でもそれは、若手作家たちと演出家とで突破し、クリアしていくのが目標です。

今後も、若い人からお年寄りまで、お祭りみたいなかな場所で年々観に来てくださる方が若者男女どんどん増えていくと嬉しいです。でもそれは、若い人からお年寄りまで参加できるといいですね。もちろん課題もたくさんあります。取り組みは毎年進歩していくと思うから、それだけ難しさは増していくでしょう。でもそれは、若手作家たちと演出家とで突破し、クリアしていくのが目標です。

記憶をモチーフにオリジナルの戯曲へ。

この事業の大きな要素は、北九州の地元で頑張っている若手作家たち。この2年で、「記憶」を戯曲にする作業が少しずつ結果に表れてきて、彼らが書く作品が進歩していることを一番強く感じています。

「戯曲」に対する作業は、聞いた話をそのままドキュメントにして再現するのではありません。そこで、僕らが聞いて鮮やかな記憶だと感じても、本の「記憶」の中の鮮やかな記憶には敵わない。若手作家の感性とぶつからなければ、面白い戯曲にはなりません。

だから僕は作家たちに、「聞いた話をモチーフに、それのオリジナル作品を創ればいい」と言っています。聞いて面白いと思ったところを出でることを僕も楽しめています。

STAGE PREVIEW

スズの兵隊 “The Stead fast Tin Soldier”

主催：北九州市立大学演劇研究会
海外編 先行 P

スズでできた1本足のおもちゃの兵隊は、同じく1本足で立つ踊り子の人形に思いを寄せます。窓から落ち、数奇な冒険を経た兵隊は、踊り子と再会することができましたが…。アンデルセン童話の名作をナレーションと音楽にのせておくる美しい人形劇。

小劇場 7/19(日) 7/20(月)
13:00(12:45開場) ● ●
○出演 オールアルヴァレス ババッタートカンソニー(From Aladdin)
●大人¥2500、子ども(18歳未満)¥1000
※日時指定・全席自由 *2歳未満膝上観覧無料

木のリズム “WOODBEAT”

主催：北九州市立大学演劇研究会
海外編 先行 P

床に敷き詰められた小さな木のかけらの中から、いろいろな音が聞こえたり、不思議な生き物が出てきたり…。バーカッショニストとバペティアが織りなす木とのふれあいを、目で見て、音を聞いて、一緒に手で触れて楽しめる、言葉を使わないパフォーマンス。

創造工房 7/19(日) 7/20(月)
11:00(10:45開場) ● ●
15:00(14:45開場) ● ●
○出演 ハリオスマスター(From Aladdin)
●大人¥2500、子ども(18歳未満)¥1000
※日時指定・全席自由 *2歳未満膝上観覧無料

平成26年度 第44回北九州市ファミリー劇場 一角笛シリエット劇場
「小さな青い鳥機関車」「つのぶえのうた」

主催：北九州市立大学演劇研究会
海外編 先行 P

「北九州市ファミリー劇場」は、幼稚園・保育園世代の子どもたちに向かって、北九州市主催の文化事業です。かわいらしい人形達によって描かれる幻想的で鮮やかな影絵の世界に子ども達はくぎ付け！

5/20(日) 戸畠市民会館 大ホール
8幡市市民会館 大ホール
5/22(火)~24(木) 北九州芸術劇場 大ホール
5/26(土) 若松市民会館 大ホール
5/27(日) 門司市民会館 大ホール

○会員先行 5/17(土) >>P.9
○一般発売 4/18金

北九州芸術劇場+市民共同創作劇 Re:北九州の記憶

北九州市が市制50周年、北九州芸術劇場が開館10周年を迎えた昨年度、北九州芸術劇場+市民共同創作劇「Re:北九州の記憶」がスタートした。「北九州」の街で何十年と暮らしてきた人々に地元の若手作家たちが聞き取り取材をおこない、一人ひとりの“記憶”を掘り起こし、思い出やエピソードを演劇的に脚色して戯曲を制作する新しい事業だ。

“記憶”が“戯曲”になるまで

実際に、「Re:北九州の記憶」はどのようにして創られているのか。

人々のささやかな“記憶”が“戯曲”になるまでの流れを紹介とともに、今年度の作品にインタビュー協力・出演もされた小田晏雄さんと松尾樹明さんに制作時の思いを伺つた。



小田さん

松尾さん

不思議なもので、話しているうちに自分でも忘れていたような記憶が引っこ抜かれることもある。あらかじめ話す内容を考えているわけではないのに、話しているとどんどん出てくる感じでした。

● **取材** ●

顔合わせの際に印象に残っていたことなど、気になる“記憶”を重点的に、若手作家たちが高齢者に直接お話を伺います。1回だけではなく、3~4回になることもあります。

ふくらませて、自分のオリジナルの物語を創るようになります。それでも、そこには必ず話を聞くてくれた方々の“記憶”が下敷きになっていますから。

● **戯曲執筆** ●

顔合わせの際に印象に残っていたことなど、気になる“記憶”を重点的に、若手作家たちが高齢者に直接お話を伺います。1回だけではなく、3~4回になることもあります。

芝居はもう、脚本が命です。今回もとてもいい脚本に仕上がっていましたね。

● **顔合わせ** ●

お話し頂ける高齢者の方々、若手作家・劇場スタッフが一堂に集まって顔合わせ。自己紹介で初めてお互いを知り合います。みなさんお話ししたことたくさんで、ついで時間が長くなってしまいます。

北九州で生まれ育ち、現在も在住している高齢者の方々の中から、「家族」「仕事」「結婚」など、心に残る貴重な体験や思い出の“記憶”をお話し頂ける方を募集！

私自身が自分史*を書いた経験から、人の“記憶”を演劇作品にする作業はとても難しいだうなと思いました。

松尾

*第9回北九州市 記念史文賞受賞

STAGE PREVIEW

北九州芸術劇場プロデュース／市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥2014」コラスワークショップ 参加者(合唱出演者)募集



歌声で探す青い鳥。
11年目の“歌のつばさ”にあなたも参加しませんか？

チルチルとミチルが幸せの青い鳥を探して旅に出る物語「青い鳥」にオリジナルの詞と曲をつけ、市民のみなさんの歌とインターで繰り広げられる「わたしの青い鳥」。初夏を告げる劇場の人気企画として愛され続いているこれまで延べ800名以上の方に参加頂きました。プロの講師陣の指導のもと、約1カ月半のワークショップを経て本番公演を実施。そぞろに歌を練習する姿が見られます。

● 参加資格 ● 歌うことの好きな小学3年生以上の老若男女で、*当日各 ¥2000席 *2歳以下膝上観覧無料

● 練習場所 ● 小劇場 戸畠市民会館 大ホール
八幡市市民会館 大ホール
若松市民会館 大ホール
門司市民会館 大ホール

● 参加費 ● 一般¥5000、学生(小学3年生~大学生)¥3000
*ワークショップ初回に、受け付にてお支払いください。

■応募方法

所定の応募用紙(劇場HPよりダウンロード可)に必要な項目を記入し写真を貼り付けて郵送で応募ください。応募締切後、ワークショップ開始1週間前に郵便にてお届けいたします。

お申込み・お問い合わせ

TEL:093-802-1211 北九州市小倉北区室町1-1-1-11 北九州芸術劇場
FAX:093-802-1211
E-mail:blog.goo.ne.jp/doli-lido

ワークショップの様子はコチラから
わたいの青い鳥 ブログ ウェブ検索

合唱出演者募集

締切：5/12月必着 *応募者多数の場合は抽選

公演情報

中劇場 7/13(日)
15:00 ●

○作曲 長生淳 ○作詞 能祖将夫
○出演 合唱・ワークショップを受けた市民の皆さん 指揮：植本英一
ソプラノ/ロード：森智子(藤原歌劇団団員)
ピアノ：白石光隆
ナレーション：能祖将夫
●大人¥1500、子ども(3歳~中学生)¥1000
※全席自由・当日共通 *2歳以下入場不可

●一般発売 5/18日

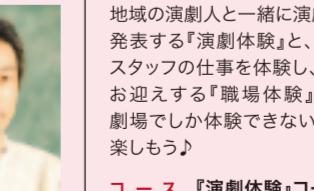
STAGE PREVIEW

参加者募集	
締切: 6/20 金必着 ※応募者多数の場合は抽選	
DDWプレ企画 夕暮れダンス 「ちいとゴメンよ、じゃまするよ。」	
 今年もやります! ダンススタイル! 仕事帰りに、お買物帰りに、ちょっと呑みに来た人々を巻き込みながら、ダンスを楽しむ「夕暮れダンス」を今年も実施。今回はダンサーとして参加し、一緒に会場を盛り上げてくれる方を事前に募集します!	
対象	・ダンスに興味のある20歳以上の男女 ・稽古・本番に参加できる方
日程	【稽古】7/12(木) 14:00~17:00、8/1(日) 14:00~16:00* 【本番】8/1(日) 18:00~20:00* *時間は予定
講師	北村成美(ダンサー) 創造工房・内飲食店
会場	創造工房・内飲食店
応募方法	(1)住所 (2)氏名 (3)年齢 (4)職業／学校 (5)連絡先(電話・メール) (6)興味、特技、希望機会などご自由に。を記入の上、ハガキ、メールもしくはFAXでお申込みください。
お申込み・お問合せ	〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-1-11 北九州芸術劇場「夕暮れダンス」係 TEL093-562-2620 FAX093-562-2633 E-mail:kitekite@kicpac.org

STAGE PREVIEW

出演者募集	
締切: 5/7 水必着 ※応募者多数の場合は抽選	
平成26年度公共ホール演劇ネットワーク事業 こどもとおとのためのお芝居 「暗いところからやってくる」	
 月猫えほん音楽会2014 SFやオカルト、ホラーなどに彩られた作品を生み出す劇団イキメの主宰・前川知大が、子どもの心の内部を描いた、夏休みに親子で楽しめるちょっと怖い話。舞台上に作られた主人公・輝太の部屋の中の客席で、「見えない何か」を体験してみませんか?	
中劇場 (舞台+客席)	8/30(日) 14:00 ● 17:00 ●
○会員先行 6/28(土) >>P.09 ○一般発売 7/6(日) >>P.10	8/31(日) 14:00 ● 17:00 ●
○会員先行 5/17(土) >>P.09 ○一般発売 5/25(日) >>P.10	

STAGE PREVIEW

出演者募集	
締切: 5/7 水必着 ※応募者多数の場合は抽選	
北九州芸術劇場リーディングセッションvol.24 「霧雨田のある死体」 演出:山崎清介	
 夏休み子どものための劇場体験2014(仮) 「戯曲でどこまで遊べるか」をモットーに第一線の演出家が国内外の魅力的な戯曲を用いて、1週間で創作を行な人気企画。第24弾は「子供のためのシェイクスピアシリーズ」でお馴染み、俳優としても活躍されている北九州市出身の山崎清介を迎えてお送りします。	
演出 原作	山崎清介 5/18(日) 10:00~21:00
上演会場	劇場
応募資格	年齢: 舞台経験不問 稽古: 公演の全日程に参加可能な方 登場: 各コース10名程度 会場: 創造工房・小劇場・中劇場 参考料: ¥4000(子供のためのシェイクスピア「ハムレット」観劇料¥2000含む)
応募方法	専用応募用紙(劇場HPよりダウンロード)に必要事項を記入し写真を貼付の上、郵送でお申込みください。
お申込み・お問合せ	〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-1-11 北九州芸術劇場「リーディングセッションvol.24」係 TEL093-562-2620(担当:三橋、安元)

STAGE PREVIEW

出演者募集	
締切: 6/9 金必着 ※応募者多数の場合は抽選	
夏休み子どものための劇場体験2014(仮) 「ハムレット」	
 子供のためのシェイクスピア 20周年記念公演 「ハムレット」 フォーメーションを変える机とイス、その間に併優たちが動きまわれば、そこはもう宮殿や森、戦場に早変わり! 想像力を引き立てる上質な舞台で、シェイクスピアの魅力を存分に味わえる人気シリーズ。今作は、シェイクスピア誕生450年を迎えて色褪せない名作劇をお届けします。	
中劇場 (舞台+客席)	7/26(日) 14:00 ●
○会員先行 5/17(土) >>P.09 ○一般発売 5/25(日) >>P.10	

今年もやります! エンゲキ×アート

モテたい売れたい僕らアーティスト

～アート界のスター・バスキアに憧れた若者の、愛と青春と勘違いの物語～
昨年、北九州芸術劇場と北九州市立美術館分館が入るリバーウォーク北九州のオープン10周年を記念して行われた共同企画が今年も開催される。市立美術館の所蔵作品からお芝居をつくるこの企画。演劇というフィルターを通して、絵画の背景にある様々な物語がひも解かれ、一枚の絵から広がる豊かな世界を体験できる特別な時間だ。

印象派の名作に隠された謎を解け!
「切り裂かれたキャンバス」

絵が、いつの間にか自分から遠い場所でその良さや価値を決められ取られていく。いったいアートの価値とは何が、そしてアーティストであるのはどういふことか? 今回、バスキア

去年6月に上演された「切り裂かれたキャンバス」は、市立美術館開館の年(1974年)に購入された印象派の代表画家、エドガー・ガーゲによる「マネとマネ夫像」をテーマにした演劇作品。だが、実はマネの夫の顔の位置で「マネ」が切り裂かれていた。一枚の絵画から始まつたお芝居は、19世紀に描かれたマネとマネ夫像が、美術の知識のないサラリーマンに扮した若者が推測を重ね、「マネが隠したいものが描かれていた」など、実際に市立美術館の芸術員の皆さんからアイデアを出してもらい、台詞を固めたり、余曲折り、そして「良い作品」とは? と根本的な問い合わせをして、それが「いい台詞をつけてもらおう」といふ意図で、北九州の美術館に辿りつくまでの経緯を紹介する。夫の顔の位置で「マネ」が切り裂かれたキャンバスより

「市立美術館の所蔵作品は全国的に見ても珍しいけれど、自分の町の美術館にいるな」と語るのは、企画の作家である小松健一郎さん。作品があるかないか知らない人も多いと思うんです」

「市立美術館の所蔵作品は全国的に見ても珍しいけれど、自分の町の美術館にいるな」と語るのは、企画の作家である小松健一郎さん。作品があるかないか知らない人も多いと思うんです」

「市立美術館の所蔵作品は全国的に見ても珍しいけれど、自分の町の美術館にいるな」と語るのは、企画の作家である小松健一郎さん。作品があるかないか知らない人も多いと思うんです」

「市立美術館の所蔵作品は全国的に見ても珍しいけれど、自分の町の美術館にいるな」と語るのは、企画の作家である小松健一郎さん。作品があるかないか知らない人も多いと思うんです」

「今年は現代美術作品に挑戦! バスキアに憧れた若者の七転八倒?」

「この「切り裂かれたキャンバス」に続ぎ、今年上半期に開催されるのが、80年代の「ヨーロッパアート」を駆け抜け抜け27歳の若さで一世を去ったジャニミン・バスキアの「消防士」をベースにした「モテたい売れたい僕らアーティスト」だ。昨年と打って変わって現代美術、しかもオリジナリティ溢れる作品で旋風を巻き起こした黒人アーティスト・バスキアだが、その絵に内包する問いは、必ずしも前に並んでいた商業的な成功を得て金持ちのコレクターに翻弄される内に「何のために描くのか?」「良い絵とは?」といった根本的な問いに直面するバスキア。本当は女子の子にモテなくて、売れなくて、カッコ良くありたくて、それ以上にただ楽しくて描いていたはずの

「あつた」という。「初めての試みだったので集客は不安でしたが、実際は公演前に全公演前に見れる本物の絵」は、演劇とはまた違った力で見る人の迫ってくる。普段とは異なる視点で、そして気軽に「美術」に触れる機会として、今年も枚の絵ひとつお芝居から生まれるたくさんのお芝居に期待したい。

「あつた」という。「初めての試みだったので集客は不安でしたが、実際は公演前に全公演前に見れる本物の絵」は、演劇とはまた違った力で見る人の迫ってくる。普段とは異なる視点で、そして気軽に「美術」に触れる機会として、今年も枚の絵ひとつお芝居から生まれるたくさんのお芝居に期待したい。

JEAN MICHEL BASQUIAT ジャン=ミッシェル・バスキア

1960年、ハイチ出身の父とブルックリンで誕生。アーティストの影響で幼少期から絵を描くようになり、1970年代、高校生のバスキアは「SAMO(same old shit つまりねー)」という署名つきのグラフィティを始めた。PAIを投げつけて高校を退学後、家を飛び出したバスキアは路上と友人宅を行き来しながら絵を描き続けます。やがて「ストリート」での活動が注目を集め、ギャラリーで「ドレッドヘアにアルマーニ」のスーツといふ奇抜なスタイルの黒人アーティストは、時代の波に乗り瞬間に「成功」を手にしたのもつかの間、商業的なアート界に翻弄され次第に自分を失っていくバスキア。ヘロインにおぼれ、何度も立ち直りうするも叶わず、27歳で亡くなりました。

Q
44
vol. SPRING 2014

人まち結ぶ、
響ホールの情報誌「Q」

◎発行：(公財)北九州市芸術文化振興財団
◎響ホール
北九州市八幡東区平野1-1-1国際村交流センター内
TEL.093-662-4010 FAX.093-662-0100
<http://www.hibiki-hall.jp/>

演奏者が惚れ込む、
極上の響きに包まれて—



©野口賢一郎

©Yuji Hori

String Quartet

A 北九州市出身の双紙正哉
(東京都交響楽団 第2ヴァイオリン首席奏者)をはじめ、
各地オーケストラの首席奏者を務める精鋭たちで結成された「ストリング・クワルテット ARCO」。
それぞれに充実した活動を続ける4人が“ARCO”に込めた想いとは?
さらに、弦楽四重奏の魅力について、メンバーにお話を伺いました。

取材・文:真嶋 雄大

Special Interview

響

ホールにストリング・クワルテット ARCO が帰ってくる。北九州市へは 1998 年の初登場から 4 年連続で演奏してきた彼らであり、もちろん地元出身の双紙正哉さんをはじめ、メンバーもそれぞれ個別には多彩な演奏活動を繰り広げてきたが、ARCO としては 2001 年 11 月 2 日の若松恵比寿神社紫陽殿、北九州国際音楽祭「ヤング・ヴィルトゥオーゾの饗宴」以来、13 年ぶりの登場となる。

「響きの素敵なホールで、とても弾きやすかったです。柳瀬さんとの二重奏を

よく覚えています。あとチャイコフスキイの《アンダンテ・カンタービレ》の第 2 楽章だけとか…」とは第 1 ヴァイオリンの伊藤亮太郎さん。また第 2 ヴァイオリンの双紙正哉さんは「13 年前は、弦楽四重奏曲の全曲はやっていないと思います。ただ僕は北九州市出身なので、ほとんど毎年帰っているんですが、響ホールは北九州が誇る一番の室内楽ホールだと思いますね」と大変な惚れ込みよう。

またヴィオラの柳瀬省太さんは「松原勝也さんと室内楽をやったり、オケにも

出させてもらっていて、だいたい毎年来ていると思うんですが、大きさもちょうどよく、響きもよくて、大好きなホールのひとつです。弾いている音が、後ろの隅の方まで届いていると感じますし、響ホールから九州の室内楽は発信しているのではないかと思っています」と絶賛、チエロの古川展生さんも「僕はそんなに毎年ではなく、たまに来させてもらっている程度なんですが、最近はともかく、響ホールができた当時、北九州にこんなすばらしいホールがあるんだと強く思っ

た記憶があります。ステージで弾いていても、音が結構返ってくるのがわかりますね」と同意。メンバー全員、その響きに心酔しているのである。

今回、6 月 29 日の公演はハイドン「弦楽四重奏曲 第 31 番 Op.20-1」、ドヴォルザーク「弦楽四重奏曲 第 12 番《アメリカ》」、そしてベートーヴェン「弦楽四重奏曲 第 10 番《ハープ》」という、まさに弦楽四重奏の王道を行くプログラム。クワルテット ARCO はなぜこの曲目を選んだのだろう。

(11p.へ続く)